

キャラクター名
糸辻(高坂)ヒナノ

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス ハヌマーン	ワークス	ドライバー	カヴァー	学生
オプション		年齢	10	性別	♀
覚醒	探求	衝動	飢餓	初期侵食率	36%
出自	貧乏	経験	喪失	邂逅	貸し

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	2	1	0			3	行動値	1
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉	1	
回避			知覚			意志	3	1	調達	12	
運転:	21		芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
フォールンギークル	運転	3r+21	13	13		搭乗中全判定ダメージ+1/行動:-3/全力移動:300m(上級65)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
戦闘用きぐるみ	24	12	-1	-1	
世界制服	22	7	-1	-1	<意思> 判定達成+3

所持品	
携帯電話	
制服	
情報収集チーム	
手配師	
メディカルサポート	
メモリー: ナターシャ	
思い出の一品: 白兎のぬいぐるみ	

合計装甲: 19 合計回避: -1

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
秘密兵器	P	N		
糸辻 正継	P 好き	N 偏愛		
赤川朱莉	P お姉ちゃん	N 恐怖		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 28 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
C:モルフェウス	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: C値-[Lv](下限:7)								
砂の加護	3	3	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 直前使用/判定ダメージ+[lv+1]/(1/1R)								
スタートダッシュ	1	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: 戦闘移動可(離脱可)/(lv*1/1ターン)								
ライトスピード	1	5	マイナー	至近	自身	自動	100↑	
効果: Xジャーアクション*2/判定C値+1/(1/1リリオ)								
巨匠の記憶	5	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果: [運転][芸術][情報][知識]と組み合わせ/ダメージ+lv個								
クリスタライズ	3	4	Xジャー	-	-	シンドローム	100↑	
効果: (3/1リリオ)/攻撃力+[lv*3]/装甲貫通								
砂塵霊	3	3	オート	-	-	-	リミット	
効果: [砂の加護]同時宣言/攻撃力+[lv*4]								
黄金錬成	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 常備化ポイント+[lv*10]/初期浸食+3								
軽功	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 何処でも走ることが出来る								
折り畳み	★	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 折り畳んでlv個分を隠す								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「ご注文のUGNエージェントです。こちらのエフェクトはサービスとなっております。」
「…おや？何か轢き殺したような気がしましたが…まあ良いでしょう。」
「…うるさい!猫"なら知り合いにいますが、今度はうるさい!犬"ですか…動物に好かれやすいのも考えものです。」

本業のUGNの仕事とは別に複数のアルバイトを掛け持ちしている少女。
え？バイトするには年齢が幼過ぎる？労働基準法？オーヴァードが今更何を言っているのですか？
ジト目で口調もビジネスライクに淡々としている。発言の節々で毒舌を吐く。
極貧生活の只中にいた為、お金に対する執着は人一倍高く、お金を稼ぐことを第一としている。守銭奴。
その為、基本的に彼女の行動原理は報酬ありきなのである。

最近、霧谷の助言もあり、所属しているUGN支部長のアルテラ(糸辻 正継)の家で居候生活を始めている。
肉親もなく、貧困に喘ぐ孤独な我が身の前に唐突に出現した"家族"と言う不思議な存在に
当の本人も緊張と驚きとでドギマギしており、どう距離感を取ったらいいのかが分からないようだ。

ただ、未だかつて感じたことも無かった"家族を得た"という温かな感情に関しては、
「不思議と悪い気はしません…」
と感じているようで本人がその真意を自覚しているかどうかはさておき、満更でもない様子である。

そんな事もあって上司であり、今となっては自分の保護者というべき存在となっている"糸辻 正継"に対し、
何と呼称したら良いのか少し悩んでいるようだ。